

Rhododendron nudipes Nakai subsp. *niphophilum* Yamazaki var. *lagopus* (Nakai) Yamazaki in Journ. Jap. Bot. 59: 210 (1984).

var. **niphophilum** (Yamazaki) Yamazaki, comb. nov. ユキグニミツバツツジ

Rhododendron nudipes Nakai subsp. *niphophilum* Yamabaki in Journ. Jap. Bot. 56: 363 (1981).

Rhododendron nudipes Nakai subsp. *niphophilum* Yamazaki var. *niphophilum* Yamazaki in Journ. Jap. Bot. 59: 210 (1984).

var. **tsurugisanense** (Yamazaki) Yamazaki, comb. nov. ツルギミツバツツジ

Rhododendron nudipes Nakai subsp. *niphophilum* Yamazaki var. *tsurugisanense* Yamazaki in Journ. Jap. Bot. 59: 210 (1984).

var. **tokushimense** (Yamazaki) Yamazaki, comb. nov. トクシマミツバツツジ

Rhododendron nudipes Nakai subsp. *niphophilum* Yamazaki var. *tokushimense* Yamazaki in Journ. Jap. Bot. 56: 364 (1981).

Rhododendron nudipes Nakai subsp. *nudipes* var. *tokushimense* (Yamazaki) Yamazaki in Journ. Jap. Bot. 59: 210 (1984). (東京大学 理学部附属植物園)

○ヒメアメリカアゼナ日本に帰化 (山崎 敬) Takasi YAMAZAKI: *Lindernia anagallidea* (Michx.) Pennell naturalized in Japan

都立大学から依頼されて、牧野富太郎氏所蔵の未整理標本のゴマノハグサ科植物の同定をした際、標本の中に変ったアゼトウガラシ属のものがあつた。瀬戸内諸島、Aug. 1933、牧野富太郎とあり、牧野氏が亡くなられた後で機械的に整理されたもので、正確な採集地は解らない。この植物は日本の野生種ではなく、北アメリカ東部の湿地に広く分布する *Lindernia anagallidea* (Michx.) Pennell であったので、1967年そのように同定して牧野標本館に納めておいた。標本が1枚しかなく、日本に帰化しているかどうか判らなかったのでそのままにして忘れていた。たまたま広島大学植物学教室の大学院でアメリカアゼナの研究をしている森田淳氏がこれを見付けて知らせて下さり、東大で同君と共に調べた所、京都府と千葉県で採集されていることが判った。ヒメアメリカアゼナと名付けてここに紹介する。

ヒメアメリカアゼナはアメリカアゼナ *Lindernia dubia* (L.) Pennell によく似ているが、葉が小さく、長さ 5-13 mm、幅 2-6 mm、基部は円形〜くさび形で無柄であり、花柄は長く、その下の葉の 2-3 倍長である。アメリカアゼナの葉は大きく、長さ 8-30 mm、幅 3-10 mm、茎の上部の葉は無柄で基部が円形のものもあるが、下部の葉は柄があり、葉身は下部に次第に狭くなって柄に続く。花柄は短く、その下の葉より短いと同長でときにやや長いものがある程度である。こうした特徴で両者は明らかに区別できる。ヒメアメリカアゼナをアメリカアゼナの変種として扱い *L. dubia* var. *anagallidea*

(Michx.) Cooperrider とする意見もあるが、多くの本では別種としているし、両者が連続することもないので、別種として扱うのが妥当だと思う。東大にあるヒメアメリカアゼナの採集地は次の様である。京都府、伏見、宇治川、観月橋、河原の湿地（山崎敬, Sept. 26, 1951, no. 5571）。京都府、伏見、向島（中井 源, Sept. 27, 1951, no. 5689）。千葉県、柏市、手賀沼畔（伊藤 至, Sept. 1, 1967）。山崎と中井の標本は日が違っているけれど、同じ日に同じ場所で採集されたものと思う。中井（現姓村田）氏の案内で観月橋の下河原に群生している本種を見付け、当時アメリカアゼナと同定したままにしていたものである。ヒメアメリカアゼナはアメリカアゼナと同じ頃に帰化しているので、もっと広がっているものと考えられる。アメリカアゼナと混同されている可能性が高い。（東京大学 理学部附属植物園）

○ヘラオモダカの新変種アズミノヘラオモダカ（角野康郎・浜島繁隆）Yasuro KADONO & Shigetaka HAMASHIMA: A new variety of *Alisma canaliculatum* found in Japan

1984年8月、長野県南安曇郡穂高町の水田で、花茎が葉より上に出ず、花が密集した花序をもつヘラオモダカを採集した。神戸と名古屋でこの植物を栽培して観察を続けたが、上記の花茎の特徴は安定していた。通常のヘラオモダカの花茎の伸び方について、自生地及び栽培下で注意深く観察をくり返し、標本にもあたってみたが、花茎は必ず葉よりも上に長く伸び、散開した大形の花序になる。ヘラオモダカの花茎の最下部の枝は3本がふつうであるが、穂高町の植物では分枝が3～5本と多い。この枝は横に広がらず斜上し、5～15 mm 伸びたところで4～8本の花柄を出す。この花柄も4～15 mm と短いため、花（果実）が密集した花序になるのである。その他の形質では全体が小形（全高 15～20 cm）であるということのほか際立った差異は認められないが、上に述べたような花茎の特徴をもつヘラオモダカは今までに知られていないので、新変種として記載することにした。和名は産地にちなみ、アズミノヘラオモダカとする。

Alisma canaliculatum A. Braun et Bouche [Ind. Sem. Hort. Berol.: 5 (1862), nomen] ex Samuelsson, Ark. Bot 24A (7): 29 (1932)

var. **azuminoense** Kadono et Hamashima, var. nov. (Fig. 1)

A typo differt scapis quam foliis brevioribus et inflorescentiis condensatis.

Hab. Nagano Pref.: in a paddy-field, Hodaka-cho, Minami-azumi-gun (Y. Kadono & S. Hamashima 841, Aug. 6, 1984: Holotype in KYO).

末筆ながら、ラテン語の記載文等でお世話になった京都大学理学部植物学教室永益英敏氏に心より御礼申し上げます。（神戸大学 教養部生物学教室・高蔵高校）